令和５年度

会長のつぶやき

Vol. 9
不定期に発刊します。
葦高小学校PTA通信

登下校の見守り

ご協力ください。

こんにちは。PTA会長 井上です。今回は「登下校の見守り」です。保護者の皆様にもぜひご協力をいただきたく思っております。

私がPTAの役員になって、「挨拶運動」や「下校指導」、そして「通学路安全点検」の行事に参加して思っていたことなんですが、朝と夕方の登下校の時間帯は、日中に比べて自転車・自動車の交通量が多く、危険がいっぱいに感じました。

警視庁の調べによると、全国で登下校中における死亡または重傷を負った児童（小学生）はここ５年間で９００人を超えており、登校中が約３００人、下校中が約６００人と、下校中の事故が目立っています。そしてこの９００人は、死亡または重傷の数であり、軽傷も含めると更に多くの児童が事故に遭っていると想像できます。登校時は集団であっても、下校時は単独行動になることが大きく関係しているのでしょうか。

葦高学区では、交通量の多い場所や信号機のない横断歩道などにはボランティアの方々が立っていて、児童の安全を見守ってくれています。私も保護者の１人として本当に頭の下がる想いです。が、しかし通学路すべてにボランティアの方々が立っているわけではありません。

基本、学校外の安全確保の責任は本人にありますが、「自分の身は自分で守る」というのは、いくら何でも児童にはまだ難しいことです。小学校では「交通安全教室」を開いて交通ルールや道路での危険について学んでいます。しかし、児童がどれだけ気をつけていても防ぎようのない事故が起こっていることもテレビで目にします。そんな悲しいことはこれ以上、起こってほしくありません。

ここで保護者の皆様にご協力のお願いです。登下校中の児童を、地域ぐるみで守れる学区にしたいのです。児童たちや地域へ少しでも意識を向けることで、登下校時の「見守る目」や通学路の「危険個所の発見」を増やすことにつながります。ご近所の方々、ボランティアの方々、通行人、お店のスタッフさん。そして、防犯カメラや自動車のドライブレコーダーは事故や犯罪の瞬間を記録してくれる貴重な証拠になります。そういった様々な「目」が行き届いている地域は、事故や犯罪の抑止になると私は信じています。

朝、自宅から少し歩いた所まで見送ったり、自宅から少し歩いた広い道までお迎えに行けたりしないでしょうか。無理をしない、無理をさせない範囲でご協力をお願いします。

（※当然ですが警察が実施するような取り締まりは必要ありません。）